⑩　三　船　志代子　氏　（択捉島元島民）

私は択捉島の一番北にある蘂取（しべとろ）村というところで生まれました。

蘂取村の「蘂取」とはアイヌ語で「大きな川のあるところ」という意味だそうです。

今日は、蘂取村がどんなところだったのか、人々がそこでどんな暮らしをしていたのか、戦争が終わってからソ連兵がやって来た時の様子、強制送還により島から引き揚げて来たときの様子などをお話します。

まず始めに、私が生まれた「蘂取村」がどんなところだったのかお話しいたします。今は３、４年に一度、「蘂取」に行くことができます。戦争が終わってからは島へ行くことができませんでしたが、20 年くらい前から自由訪問や北方墓参というお墓参りなど、これらの事業に参加すると行くことができるようになりました。

蘂取に行くには、根室の港から船で行きます。行くまでには一中夜、かかります。根室からは145㎞くらいあります。ロシアのハンターに守られながら上陸するのですが、村はすっかり自然に返っており、もう人は住んでおりませんが、今はヒグマのすみかとなっています。

私たちが島から引き揚げる時には、村にはおよそ 500 人が住んでいました。今は、学校の門やお寺の境内にあった大きな松の木、それから神社の土台などが残っています。また、お墓は小高い丘の上にあったのですが、ここにあった墓石は全部捨てられて、最近はロシア人が１か所に集められてくれました。これらを見ると、昔、ここに人が住んでいたのが分かります。

ここに「ばあちゃんのしべとろ」という絵本があります。この絵本は、根室支庁で子供たちにもっと島のことを知ってもらいたいということで、コンクールを実施しました。このコンクールに応募し、最優秀賞に選ばれた絵本です。作者は私、「三船志代子」。素敵な絵を書いていただいたのは、娘の同級生の「林真紀子さん」です。ここで読んでみますので、皆さん蘂取はどんなところだったのか、想像しながら聴いてください。

（絵本の朗読）

「ばあちゃんのしべとろ」
ばあちゃんはね
北方領土からの引き揚げ者なんだよ

「北方領土」　ここにはね
日本の国とロシアの国のとてもむずかしい問題があるんだよ

根室半島からカムチャッカの間に島がいくつもあるよね
根室に一番近いところにある四つの島
歯舞諸島　色丹島　国後島　択捉島
この北方四島を「北方領土」と呼ぶんだよ
北方領土は日本の領土なんだよ

ところがね
昭和 20 年８月 15 日に戦争が終わってから
ソ連軍が北方四島を占領してしまったんだよ

島に住んでいた日本人はそこに住めなくなってね
むりやり（強制的に）島から引き揚げることになったんだよ
その時　ばあちゃんは小学校３年生だったよ

ばあちゃんはね
択捉島の蘂取で生まれたの
島の一番北にある 500 人くらいの小さな村だったよ
とってもいいところだったよ

村にはね
役場　郵便局　小学校があったよ
立派なお寺や神社もあったよ
駅逓　公会堂　お店　床屋さんもあってにぎわっていたんだよ

お寺に小さなお堂があってお地蔵様が入っていたの
亡くなった子どもの着物をかけてもらって
いつも花が供えられていたよ
そんなやさしい村だったよ

島のまわりの海はね
世界の三大漁場の一つなんだよ
だからね
いろいろな魚がたくさんとれるんだよ

タラ　サケ　マス　サンマ　カニ
コンブやノリもクジラもとっていたんだって

流氷が消えて魚がとれるようになるとね
遠くからたくさんの人たちが出稼ぎに来るので
漁場や村がいっそうにぎわったんだって
魚がたくさんとれると
モッコをかついだ大人たちがいっしょうけんめい働いていたよ
船着き場から大きな倉庫まで列をつくって魚を運んでいたよ

雪どけが始まるころね
浜に行ってみると大きな氷のかたまりが残っていてね
海草なんかついているの
ホオズキのようなものもあったよ
それをひろって口の中に入れ　ブーブー鳴らして遊んだよ

街から少しはなれたところに
トッカリモイという岩場があったの
そこにはね　大きい花咲ガニがいっぱいいたよ
夏にはそのカニをつかまえて遊ぶの
とってもおもしろかったよ
つかまえたカニは潮だまりにかくしておくの
でも　潮が満ちてくるとみんな逃げてしまうの
逃げられても　逃げられても　とっても楽しかったよ

藥取川にはね　大きな橋がかかっていたよ
孵化場に行く人も子どもの遠足のときもみんな通ったよ

川の色が変わるほどたくさん魚がのぼってきてね
お兄さんたちはね
テンテンという道具を作って魚をとって遊んでいたよ

川尻ではね
潮が引くと川底から大きな石がゴロゴロと出てきて
小さい子どもでも向こう岸までピョンピョン渡れたよ
でもね　満潮になると深くなって石は見えなくなり
流れも速くなるので渡れなくなるんだよ

山の雪がとけ　ウグイスやカッコウが鳴きだすと
桜の花が咲き　野の花もつぎつぎと咲くんだよ

タンポポ　カッコウバナ　クロユリ　アヤメ　ナデシコ・・・
いっぱい咲いていたよ

大きなフキもあったよ
子どもよりもっと大きい大人の背丈くらいのフキ
母さんが大きな鍋でゆでていたよ
やわらかくて　おいしいフキだったよ

夏の終わりころね
丘に登るとフレップの実がたくさんあったの
赤紫色した小さい実だけどとってもおいしかったよ
唇が紫色になるまで食べたんだよ
その甘ずっぱい味は今でも忘れられないね

冬はね　雪がたくさん降るんだよ
家の中ではお手玉　竹わり　折り紙　人形遊び
外では雪合戦をしたり　スキーで遊び　みんな元気だったよ

真冬になると海いっぱいに流氷がやって来るの
遠くの氷の上にはアザラシが乗っていたよ
寒そうで　海に落ちたらかわいそうと心配して見ていたよ

海の向こうに水平線が続いているの
空と海がピッタリくっついて見えたよ
そこに夕日が静かに沈んでいくの
ずっと見ていると船も沈んでいくの
怖かった　ほんとうに怖かったよ

地球が丸いということを　その時はまだ知らなかったんだよ

そして　どうしてもこの島を出て行かなきゃならない日が
やって来ることもね

ばあちゃんね　ようやくなつかしい藥取へ行ってこれたよ
「自由訪問」というのに参加してね
ばあちゃんのふるさとなのに　日本の島なのに
行きたいときにいつでも行けないんだよ

今の藥取はね
住んでいた家や学校や昔の建物は全部なくなっていたよ

あの大きな橋もなくなっていたよ

街はね　砂地になってハマナスにおおわれていたよ
でもね　鳥は昔と同じように鳴いて花も咲いていたよ

波のない海は鏡のように春の景色を静かに映していたよ
やっぱり藥取はいいところだったよ

ばあちゃんの藥取はいいところだったよ

（おわり）

この絵本は私が幼かったころの記憶、また段々薄れていく記憶を思い出しながら綴ったものです。この絵本が最優秀賞に選ばれてから、当時の村の様子に間違いがないか心配になりましたけど、先輩の方々に確認したところ、藥取のことがよく書かれていると認めてもらいました。

それでは、藥取では人々がどんな暮らしをしていたのかお話しします。

まず、魚はたくさん捕れていたそうです。世界の三大漁場と言われています。なぜ魚がたくさん捕れるのかというと、南の暖流と北からの寒流が交わるところなので、いろいろな魚が捕れます。

北方領土や択捉島について書かれた本がたくさん出版されています。これらの書物には、北方領土もそうですが、当時、北海道にはアイヌの人々が多く住んでいました。アイヌ人々は、魚はもちろんのこと、ラッコや海鳥なども捕っていました。当時、ラッコの皮や海鳥の羽はとても高級品でした。海鳥の羽は、ヨーロッパの貴婦人のファッションとしてとても重宝され、高価で取引されていました。交易を通して、アイヌの人々は豊かに暮らしていましたが、ロシア人がだんだん南に移り住んできたため、そのロシア人とアイヌ人との間で小さな事件やトラブルがありました。

これらのトラブルなどがあったことから、1800 年代、今から約 200 年前、当時の幕府の命

令で、役人であった最上徳内（もがみとくない）や近藤重蔵（こんどうじゅうぞう）、高田屋嘉兵衛（たかだやかへい）などにより北方四島は開拓されたそうです。

当時、択捉島には 17 か所の漁場が開設されました。信心深かった高田屋嘉兵衛は、各漁場にお地蔵様を安置し、豊漁を祈願したそうです。蘂取もそのうちの一つです。先ほどの絵本に出てきたお地蔵様も、そのうちの一つだということを、この絵本ができてから、先輩から教えていただきました。

村の多くの人々は、この漁場で働いていました。択捉島では漁業関係の仕事をする人が多かったようです。漁が盛んになる時期には、出稼ぎの人が多くやってきました。この時期は、村の人口は倍以上に膨れあがりました。出稼ぎの人の多くは、東北地方の人だったようです。冬がきて漁が終わると、出稼ぎの人はそれぞれの地元へ帰りますので、村は寂しくなります。村では青年団や子供まで、主な人で歌舞伎を上演したそうです。村人は会場となる公会堂、今の公民館みたいな所で、ご馳走を持って集まり、楽しんだそうです。村長さんはいつも主役を務め、私の父は女方を務めました。これらの様子は、父が島から持ってきた古いアルバムの中の写真に写っていました。蘂取村は小さい村ですが、豊かな暮らしをしていました。

幼かった私が島で楽しかったことは、川や海で遊んだことです。綺麗な砂浜が続く浅い海には、小さいカレイの子供がたくさんいます。砂の中に体をかくして目だけ出しているので、すぐに分かります。私たち子供たちは、それを足で踏んだり、手ぬぐいを広げてすくったりして遊びます。でも、カレイの子供は素速く、砂をまき散らして逃げ回ります。私たち子供には捕まえることはできませんでした。絵本にも書きましたが、街外れの岩場に行くと、花咲ガニがいっぱいいました。大きい岩場があって、潮が引いたときに、岩と岩の間にできた潮だまりに捕まえたカニを入れておきます。これを捕まえることがとっても楽しかったです。

当時の村の暮らしは、今から 70 年前の話ですが、もちろん電気、水道、ガスなどはありません。明かりは石油ランプでした。ガラスの部分を火屋といいますが、汚れをとるため、毎日、この火屋部分の掃除をします。ちょうど子供の手がすっぽり入るので、私もお手伝いをしていました。飲み水は、井戸もありましが、町の中央に大きな水槽があり、山から水が引かれていました。冷たくて、とてもおいしい水でした。各家庭には大きな樽や水瓶が置いてあり、この町の中央にある水槽から、天秤棒をかついで運びました。

暖房は薪ストーブです。ストーブの上にはいつも鉄瓶があり、いつもお湯が沸いており、温かいお茶などはすぐに飲むことができました。

村には電気はありませんでしたが、電話はありました。一般家庭にはなかったのですが、役場や郵便局や警察、学校など、主なところに置いてありました。

お店は一軒ありました。このお店は、現在のスーパーマーケットみたい存在で、何でも売っていました。お米、味噌、醤油、衣料品、薬、その他日用雑貨なら何でも売っていました。その他に通信販売も行われており、私の父は東京銀座の三越から買ったと話しておりました。子供の下着などは、この店で買うことができましたが、母は和服を着ていましたので、ほどいて、自分で洗い張りをし、染め直ししたり、縫い直ししたりして、今でいうリフォームをして着ていました。

冬になると、波が高くなり、流氷が来るため、船の往来ができなくなりますので、冬に必要な生活物資はまとめ買いしていたみたいです。私の家では、リンゴなどは箱で買っていました。

畑ではイモ、ニンジン、ダイコン、ゴボウ、キャベツなど、なんでも採れました。そのほか、キュウリ、ナスビ、豆類も採れていたそうです。

山菜は、雪解けと同時にギョウジャニンニクを採ることができました。コジャク、ウド、フキ、今では高級食材の一つのユリの根も山に行くとたくさん採ることができました。そのほか、サクランボ、フレップ、イチゴ、松の実などもおいしく食べました。

次に、ロシア人が島にやってきた時の様子をお話しします。

戦争が終わって、のどかで平和だった村にロシア人がやって来ます。昭和 20 年８月 15 日に終戦を迎えましたが、ソ連軍は３日後の 18 日から、シュムシュ島の方から攻撃を始め、だんだん南下し、９月５日までの間に北方四島のすべてを占領してしまいました。

藥取村にロシア人がやって来たのは、９月の中旬を過ぎたころです。私は、まだ幼かったので詳しいことはよく分からないのですが、村人は「ロシア人が来たら大変なことになるぞ。」と、とても心配したそうです。今までロシア人は見たことがありません。言葉も通じなく、強奪や特に女性に対する乱暴などがとても心配されたそうでが、私の村の藥取村では、小さいトラブルはありましたが、大きな事件はありませんでした。でも、単冠湾（ひとかっぷわん）の近くにある年萌（としもえ）というところでは事件がありました。真夜中にソ連兵が銃を持って家に訪ねてきました。そして、対応に出た男性が射殺されました。その事件のあった民家は、私の母の実家でした。殺されたのは母のお兄さんです。私にとっては叔父さんに当たる人でした。当時、男性は戦争に行っており、島にはいないのですが、叔父さんは身体が不自由だったので、兵隊に行けずに家にいたのです。ランプの明かりを持って出ていったところ、ソ連兵はびっくりしたのか、人間だとは思わずに撃ったみたいです。

私の住んでいた家は町の中心にあり、すぐ前は役場だったので、人の出入りがよく分かりました。でも「窓を開けて外見ていけない。」と親に言われていました。しばらくしたころ、外が騒がしかったので、見てはいけないと言われている窓から、そっと外をのぞいて見ました。その時、ソ連の兵隊は踊っていました。一人がアコーディオンを弾き、他の人は楽しそうに踊っていました。コザックダンスを踊っていたように思います。子供のころは、ロシア人はとても陽気な人々だという印象を受けました。

間もなくして、家族連れのソ連兵も島へやって来ましたが、住む家がないため、駅逓や旅館をソ連兵にすべて没収され、ソ連兵はそこへ住んでいました。それだけでは足りず、一般の家も半

分仕切って、ロシア人の家族も一緒に住むところもありました。私の家にもロシア人が入って来ました。日中、ロシア人のご婦人が遊びに来て、パンの焼き方などをロシア人に教えてもらい、仲良く暮らしていました。

ロシア人がやって来てからは、学校も半分になりました。学校が半分になったので、学芸会などは学校ではできません。お寺の本堂で歌や踊りや劇などをやりました。このお寺はとても立派でした。

次に、強制送還といって、日本人全員が追い出されることになった時の様子をお話しいたします。

終戦から２年後の８月下旬のことでした。

根室から近い国後島、色丹島、歯舞群島の島民は、ソ連兵が来たことを恐れて、自分の家の船や知人の船に乗り、根室に向けて脱出を図ったそうです。しかし、この脱出は命懸けのものでした。ソ連兵に見つかると射殺されるため、暗い夜で海の時化たときを見計らって脱出します。実際、命を落とした人が大勢いたそうです。択捉島は本道と遠いので、脱出することはできませんでした。

引き揚げの通達が出たとき、私たち子供は夏休みで家にいたので、お友達にお別れも言えませんでした。あわただしく荷物をまとめ、砂浜に集られました。ところが、引き揚げることになった人々は、住民の半分でした。残された人々は、さらに１年間、ロシア人と一緒に暮らし、翌年の昭和 23 年に引き揚げました。

私の家族は父、母、４人の子供でしたが、引き揚げのときは、ご主人を亡くされた叔母さん家族８人も一緒だったので、当時 30 代の父は大変だったことと思います。

引き揚げ船に乗る時、蘂取村は択捉島の一番北にあるので、最初に乗ることができました。蘂取の海は、遠浅のため、大きな船は沖に停泊し、はしけという小船で乗り降りしなければなりません。このはしけに荷物と一緒に乗せられた私は、生まれて初めて船に乗ったため、うれしくなってしまい、船底を見たりしてはしゃいでいました。でも、大人たちは不安な顔をしていました。

乗せられた引き揚げ船は綺麗な船ではなく、ロシアの貨物船で、船底から甲板までが人でいっぱいで、不衛生でした。ノミやシラミなどの虫がたくさんいて、トイレのこと、飲み水のこと、食べ物のことなど、とても不自由で不潔なことがいっぱいでした。

私たちの乗せた引き揚げ船は、根室に引き揚げるのではなく、樺太（サハリン）の真岡（まおか）という港に上陸させられました。真岡での宿舎は女学校でした。その宿舎までの道のりは、大きな荷物を背中に抱えた小学３年生の私には大変つらいものでした。その宿舎は、９月上旬でも、とても寒いときがあり、眠れない夜もありました。また、トイレも屋外の遠い所にあり、その途中でロシア兵が銃を持って監視しており、とても恐かったです。

引き揚げのとき、一人 30 ㎏までという荷物の制限があり、家の中で一番大事なものを、それぞれが持ってきました。私は家で一番大事な仏様と、子供の下着を持ちました。ほかの家の人々は、綺麗な振り袖のような高価な着物を持ってきましたが、これらの荷物は上陸した真岡での移動の際、すべて盗まれたようでした。荷造りの仕方で、何が入っているのか、大事な物が入っているのかが分かっていたようです。

私の父はアルバム４冊と蓄音機を持ちました。途中、荷物検査があるのですが、この検査で引っかかると全部没収されてしまいます。この荷物検査を無事に通過したアルバムは、日本に来てからとても活躍することになります。父のところに行くと家族の写真があると聞いて、遠くから

訪ねて来る人がたくさんいました。今のようにコピー機のない時代です。戦争に行っていたため、写真を持ってこれなかった人など、みんな喜んでもらっていきました。娯楽の少ない時代でしたので、蓄音機もお祭りや演芸会で長い間使っていました。

ようやく９月の中旬を過ぎた頃、日本の引き揚げ船で函館の港に入港しました。ところが、当時、函館では赤痢やはしかなどの伝染病がはやっており、当分の間、上陸できませんでした。頭から、背中から、お腹まで体全体にＤＤＴという、真っ白な粉の殺虫剤をかけられて、息もできないくらいかけられ、船上で一週間くらい過ごし、その後、上陸しましたが、みんな栄養失調のような状態で、多くの人が亡くなりました。病院に入院しても、食べ物も、良い薬もありません。村の村長さんの小学生だった娘さんも二人亡くなりました。中学生くらいのお兄さんが、妹の亡骸を背負って火葬場に行き、火葬してもらったそうです。このとき一緒に入院していたおじいさんも亡くなったそうです。

一緒に引き揚げて来た人は、それぞれ親戚などを頼って、全国に旅立っていきました。一緒に引き揚げてきた叔母さん家族は、身内がいなかったため、国が決めた場所に旅立っていきました。私たちは、根室管内の別海町西春別（にししゅんべつ）に行きました。戦後の食料事情は悪く、引き揚げ者だけではなく、みんなが貧しかった時代で、品不足で物が手に入らない時代でした。まだそのころの私は幼く、親に面倒を見てもらっていたので幸せでした。

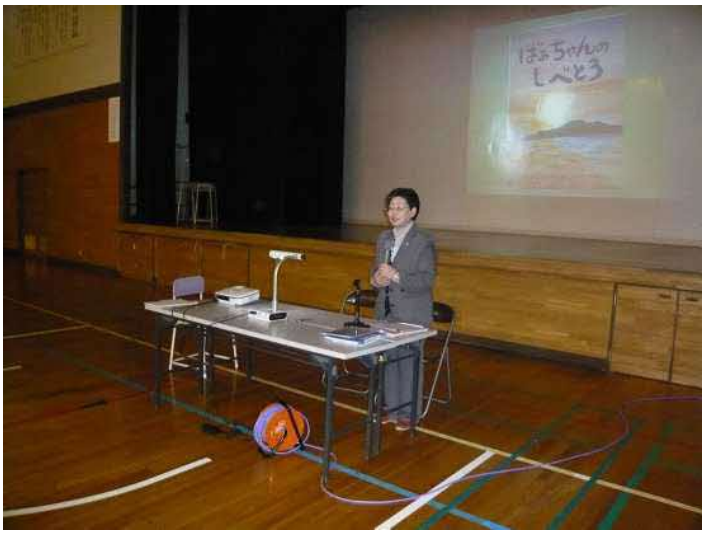
＜訪問校＞

・浦河町立荻伏中学校（平成２４年８月２９日（水））

・稚内市立上勇知中学校（平成２４年９月２１日（金））

・稚内市立下勇知小中学校（平成２４年９月２１日（金））

・江別市立江別第三中学校（平成２４年１０月１６日（火））



・室蘭市立武揚小学校（平成２４年１１月１９日（月））

• 札幌市立西野第二小学校（平成２４年１１月２２日（木））

・せたな町立大成中学校（平成２５年２月１８日（月））